

2010年9月23日（木）

2010年新司法試験の結果発表を踏まえて — 修了生諸君へのメッセージ —

I 慶應義塾大学法科大学院修了生の2010年新司法試験受験結果と、それに対するコメント

新たな法科大学院制度を基体の一部に織り込んだ法曹養成システムがスタートしてから既に7年目に入り、制度的な安定化、特にアウトプットの質の維持・向上を目指した種々の施策が投入され続け

ていますが、新司法試験の結果は、各法科大学院における法曹養成の理念及び課程の正統性と適切性を確認する為のみならず、これらの新たな施策自体の正当性と各法科大学院におけるその実施ないし執行方法の妥当性を確認する為の指標として利用し得るように思われます。今回で5回目のコメントですが、結果の如何に拘わらず、なお確立期にある新しい法曹養成制度というコンテキストの中において自らの学習の成果を改め

法科大学院名	出願者数	受験予定者数	受験者数			最終合格者数			最終合格率（合格者数/受験者数）					
			総計	既修	未修	総計	既修	未修	順位	全体	順位	既修	順位	未修
慶應義塾法科大学院	426	426	355	243	112	179	135	44	1	50.42	6	55.56	1	39.29
			H17卒	11	-		0	-				0.00		-
			H18卒	7	5		0	1				0.00		20.00
			H19卒	15	15		6	5				40.00		33.33
			H20卒	55	27		31	8				56.36		29.63
			H21卒	155	65		98	30				63.23		46.15
一橋法科大学院	149	149	138	94	44	69	58	11	2	50.00	3	61.70	13	25.00
			H17卒	-	-		-	-				-		-
			H18卒	1	1		1	0				100.00		0.00
			H19卒	5	4		3	0				60.00		0.00
			H20卒	17	9		6	2				35.29		22.22
			H21卒	71	30		48	9				67.61		30.00
東京法科大学院	501	500	411	276	135	201	161	40	3	48.91	5	58.33	10	29.63
			H17卒	10	-		0	-				0.00		-
			H18卒	7	13		0	1				0.00		7.69
			H19卒	14	13		7	2				50.00		15.38
			H20卒	55	37		31	11				56.36		29.73
			H21卒	190	72		123	28				64.74		36.11
京都法科大学院	337	337	277	193	84	135	119	16	4	48.74	4	61.66	20	19.05
			H17卒	2	-		1	-				50.00		-
			H18卒	2	6		0	0				0.00		0.00
			H19卒	17	16		6	4				35.29		25.00
			H20卒	33	24		20	5				60.61		20.83
			H21卒	139	38		92	7				66.19		18.42
千葉法科大学院	83	83	69	47	22	30	22	8	5	43.48	17	46.81	2	36.36
北海道法科大学院	188	187	144	80	64	62	39	23	6	43.06	16	48.75	3	35.94
中央法科大学院	510	510	439	308	131	189	155	34	7	43.05	9	50.32	11	25.95
			H17卒	16	-		2	-				12.50		-
			H18卒	6	9		0	0				0.00		0.00
			H19卒	23	22		8	4				34.78		18.18
			H20卒	58	41		30	13				51.72		31.71
			H21卒	205	59		115	17				56.10		28.81
大阪法科大学院	245	238	180	47	133	70	26	44	8	38.89	8	55.32	5	33.08
東北法科大学院	208	208	159	108	51	58	40	18	9	36.48	24	37.04	4	35.29
名古屋法科大学院	171	171	139	27	112	49	15	34	10	35.25	6	55.56	8	30.36
神戸法科大学院	168	168	144	104	40	49	42	7	11	34.03	21	40.38		17.50
早稲田大学法科大学院	493	491	397	11	386	130	5	125	12	32.75	19	45.45	6	32.38
			H17卒	1	-		0	-				0.00		-
			H18卒	-	21		-	2				-		9.52
			H19卒	3	61		0	15				0.00		24.59
			H20卒	2	120		1	34				50.00		28.33
			H21卒	5	184		4	74				80.00		40.22
慶知大学法科大学院	67	50	44	15	29	14	5	9	13	31.82	28	33.33	7	31.03
総計	11127	10908	8163	3355	4808	2074	1242	832		25.41		37.02		17.30

て批判的に捉え直し、各自の次の段階の具体的計画を策定する際に役立てて戴ければ幸いです。

昨年までのコメントでも繰り返し述べてきましたが、合格者数や合格率を他法科大学院のそれらとの関係で単純に数量的に比較することは、各校の条件が様々すぎて、また、情報が不十分すぎて、余り意味があるとは思えません。しかし、自己点検・評価という観点から客観的な数値を継続的に眺めてみると、極めて有意義な発見を得ることができます。例えば、慶應義塾大学 LS の修了生を全体と

してみると、2010年の最終合格者数は179名で、昨年と同様、東京大学LS(201名)、中央大学LS(189名)に次ぎ、74校中の第3位でした。最終合格率(合格者/受験者)は50.42%で第1位であり、第2位の一橋大学LS(50%)と共に、2校のみが50%を超えることができました。これらの事実だけからでも、慶應義塾大学LSの修了生諸君と教職員とが2007年度に改めて定められた厳格過ぎるとさえいわれる学習指導方針の下で弛まぬ精進を重ねてきたということは、十分に把握可能かもしれません。その健闘は適切に評価されるべきでしょう。しかし、2006年・63.41%、2007年・63.83%、2008年・56.51%と推移してきていた最終合格率が、昨年は一挙に10.14%も低下して46.37%となったことを想い出すならば、現在の益々厳しくなりつつある状況の下で、50.42%まで4%以上の上昇(回復)を達成した諸君の努力は、正に一層の敬意に値するものといえるでしょう(全校平均の合格率が、2006年・48.25%、2007年・40.18%、2008年・32.98%、2009年・27.64%、2010年・25.41%と低減の一途を辿っていることは周知の通りです)。そのみならず、179名という合格者数も、既修生・未修生両者揃った過去4回の試験の結果の中では最大のものであって、修了生各人がそれぞれの状況に

		2006年3月修了者			2007年3月修了者			2008年3月修了者			2009年3月修了者			2010年3月修了者			
		既修	未修	既修・未修計	既修	未修	既修・未修計	既修	未修	既修・未修計	既修	未修	既修・未修計	既修	未修	既修・未修計	
合格者数	2006年(H18年)試験	104	-	104	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	104
	2007年(H19年)試験	26	-	26	106	41	147	-	-	-	-	-	-	-	-	-	173
	2008年(H20年)試験	4	-	4	14	7	21	117	23	140	-	-	-	-	-	-	165
	2009年(H21年)試験	1	-	1	3	0	3	16	7	23	98	22	120	-	-	-	147
	2010年(H22年)試験	0	-	0	0	1	1	6	5	11	31	8	39	98	30	128	179
	既修・未修別累計	135	0		123	49	172	139	35	174	129	30	159	98	30		768
	全体累計	135			172			174			159			128			
	合格者/当初出願者	81.33%			74.14%			73.73%			70.04%			53.56%			69.82%

在って着実な積上げを果たしてきていることを示しています。上の表は、修了年毎の各年の新司合格者数ですが、修了者の7~8割が最終的には合格するという目安も、慶應義塾大学LSにおいては現実に達成できているといえるでしょう。昨年コメントでは、「当事者以外には想像し難い不安に苛まれながら、耐えた、挑み続けていること自体が評価されるべきことであると思います。」と述べましたが、勿論、その努力自体が実現されたものとしての結果も評価されるべきことを否定する趣旨ではありません。「修了生諸君の半数以上が、法曹養成プロセスの次段階に進む為には不十分な能力しか身に付けていない、と判断されたことは、指導してきた教員として、無念でなりません」とコメントしたことは、今年の最終合格率からすれば、若干の訂正を要しますが、なお無念さが晴れないことも言うまでもありません。修了生と共に、適正な評価を受けることのできる状況を創り出していきたいと思います。

なお、今年の未修生最終合格率は39.29%であり、これも74校中の第1位でした。昨年に比してちょうど10%の上昇(回復)を果たし、2008年の合格率(37.04%)をも2%余り上回ったことは、本当に素晴らしい成果だと思います。昨年コメントでは、未修生諸君の苦戦は「学習時間・熟成時間の絶対的不足が主たる原因であることは、中教審法科大学院特別委員会による改善の為の方策の提案を見ても、明らかです」と書きましたが、それに基本的な変更は不要と思われるものの、本年3月修了の未修生の合格率が46.15%に達していることを考えると、時間(経験・知識)以外のファクター

で解決することができるようにも思えます。勿論、慶應義塾大学LSの提供するカリキュラムを確実に消化することが、その大前提ではあると思います。

GPA	2006年3月修了者			2007年3月修了者			2008年3月修了者			2009年3月修了者			2010年3月修了者		
	合格者	出願者	合格率	合格者	出願者	合格率	合格者	出願者	合格率	合格者	出願者	合格率	合格者	出願者	合格率
4.00~3.50	5	5	100.0	9	9	100.0	10	10	100.0	11	11	100.0	7	7	100.0
3.49~3.25	16	16	100.0	18	19	94.7	28	31	90.3	19	20	95.0	23	24	95.8
3.24~3.00	28	34	82.4	36	41	87.8	31	37	83.8	27	44	61.4	32	39	82.1
2.99~2.75	31	42	73.8	30	41	73.2	31	49	63.3	40	61	65.6	34	51	66.7
2.74~2.50	12	29	41.4	40	57	70.2	26	56	46.4	18	38	47.4	21	49	42.9
2.49~2.25	12	40	30.0	11	39	28.2	12	34	35.3	5	32	15.6	10	44	22.7
2.24~1.50	0	0	0.0	3	26	11.5	2	19	10.5	0	21	0.0	1	25	4.0
	104	166	62.7	147	232	63.4	140	236	59.3	120	227	52.9	128	239	53.6

※ 合格者数は修了年に行われた試験毎のものであって、累積値ではない。

※ 受験者数は220名

慶應義塾大学LSとして、修了生諸君が必要とするアフター・ケアのどこまでを提供することが必要であり、また、許されるのか、その境界線は既に明らかになってきています。勿論、それを実施す

る為の人的ならびに物的なリソースの調達やシステム構築・調整の難しさは、以前と変わりません。しかし、遅々とした目立たないものにせよ、準備は確実に進められています。提供可能になった時点で、このホームページ等で呼び掛けていきますので、注意して見落とさないようにして下さい。

II 2010年新司法試験に合格した修了生諸君へ

(本項の最後に、修習についての説明会に代わるDVDの上映等のお知らせがあります。)

改めて、心からの御祝いを申し上げます。おめでとうございます。

修習生活への、そして、事務所回り等を始めてみて、修習後の生活への一層の期待と大いなる不安に胸膨らませていることと思います。慶應義塾大学LS修了生としての気概と自信をもって、しかし、焦らず、力まず、誠実に、互いに支え合いながら、歩み続けていって下さい。法曹を志した動機を再確認し、次のステップに進んで下さい。

また、慶應義塾大学LSの今後の展開を注意深く見守り、必要に応じて率直な御意見をお寄せ戴くと共に、特に後輩達への適確な助言・指導を中心とした御協力をお願いしたいと思います。今年も10月上旬・中旬に、諸君達と在校生との談話・意見交換の機会が設定される予定ですが、そのような形での協力への参加も宜しく願います。

なお、司法研修所から、各法科大学院は今年の修習予定者に修習事前説明会に代わるものとして作成したDVD(3時間弱程度)を視聴させるよう、依頼を受けています。時・場所は以下の通りです。適宜の日を選んで視聴して下さい。

- 1) 10月09日(土) 13:00 上映開始 三田・南館ディスタンス・ラーニング室
- 2) 10月23日(土) 13:00 上映開始 三田・南館ディスタンス・ラーニング室

III 残念ながら不合格となった修了生諸君へ、受け控えた修了生諸君へ

— 今年もまた同じ言葉ですが……

落ち着きましょう。遮二無二勉強を再開しても空回りになる危険があります。客観的に他の分野に展開せざるを得ない諸君、展開すべきか続行すべきか、あるいは一時待機すべきか、迷い戸惑っている諸君、不安・焦りを一人で抱え込んではいけません。蹲ってしまっただけではいけません。一時休み、気持を切り替えて、それぞれのプロセスを再び歩み始めましょう。それしかないのですから。

気持を切り替える為には、話すことが有効です。何処から如何にして再び歩み始めるかという問題に具体的に決着をつける為にも、言葉にして伝え、検討して貰うことが有効、且つ、多くの場合、必要です。最終的には諸君自身が歩く他ないことは良く分かっていると思いますが、その切っ掛けを得る為には、信頼できる相手・理解してくれる相手に語り、アドバイスを受けて下さい。

今年も集まって、諸君と個別的に話し合う機会を、修了生・フォローアップ委員会が設けました。フォローアップ委員と有志の先生方、そして、同じ経験を通り抜けた修了生の先輩達が対応してくれ予定です。下記の日時・場所に、必要な資料(新司成績通知)等を持参して集合して下さい。昨年と同様、最新判例解説講座等を初めとする、他のサポート情報も得られるでしょう。待っています。

日時： 2010年10月4日(月) 16:00～
場所： 南館地下4階
ディスタンス・ラーニング室